

第95回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録	
日 時	令和5年4月11日(火) 14時00分～15時20分
開催場所	横浜市立大学金沢八景キャンパス
出席委員	板東委員長、今市委員、大久保委員、大塚委員、山本委員
欠席委員	なし
法 人	小山内理事長、相原学長、後藤附属病院長、榊原センター病院長、中條副学長、遠藤副学長、吉泉事務局長 ほか
事務局	高倉大学担当理事、澤田大学調整課長、中村大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開(傍聴者 なし)
議 題	1 第94回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録(案)について 2 第4期中期目標期間中における評価について 3 公立大学法人横浜市立大学 令和5年度 年度計画概要について 4 その他
決定事項	
議 事	<p> <u>主要な発言は、以下のとおり。</u> (○：委員発言、△：法人・事務局発言) </p> <p> ※議題1について<資料1> 内容について特に意見なし </p> <p> ※議題2について<資料2> (事務局より資料2-1、2-2に基づき説明) </p> <p> ○資料2-2の1(2)に「過去の指摘事項が大学運営に的確に反映されているかを確認する」、4(4)に「過年度の評価において指摘された事項に関する法人の取組状況については～」とあるが、初めて委員を務めた際、過去のことがあまりよくわからない状況であったため、何かまとめたものを配布する等、何か方策があるといいのでは。 </p> <p> △前回も年度評価での指摘事項について最後に説明する予定だったが、あまり時間がなく十分にできなかった。今回もみなし評価があった部分の指摘事項等を評価していただくため、そのことについて、わかりやすく整理して事前にお送りするように努める。 </p> <p> ○年度評価についても同様でよいか。 </p> <p> △年度評価についても改めて整理してお送りする。 </p> <p> ○SABCという評価について、何回かやっているうちにニュアンスとしては十分わかっているつもりではあるが、どのような記述にするか、言葉にすることについて、毎年、非常に難しいと感じている。 また、「年度計画を順調に達成している」というのは、結果評価であるにも関わらず、プロセス評価のようなことに使う表現であると以前から思っている。年度計画を順調に達成しているというのはどのレベルのことを言うのだろうか。自分としては「年度計画を達成している」というように受け止めてやってきたが、滞りなく進んでいるという考え方で統一することによってよいか。 個別評価の際に、このニュアンスは非常に微妙なところがあるため、私はそれが十分か、上回っているのか上回っていないのかというベンチマークによって、あまり順調という意味にこだわらず、年度計画をまあ達成しているという意味で使っているが、それでよろしいか。これは中期計画の最後も同じ。みなし評価の場合は途上であるため、順調に進んでいるというニュアンスでいいと思うが。 </p>

△この評価方法については事務局で案を作成しているが、これまでも評価にあたっては委員の了解を得て決定してきた経緯がある。客観的な評価を行うため、プロセスというよりも結果評価ということで考えさせていただく。

○確かになかなか表現が難しいということで、こういった言葉になっているように思う。趣旨としては、ご指摘のような視点で確認していくこととする。
進め方の基本方針にもある通り、いろいろ確認して評価するというだけではなく、支援をしていくという点も趣旨として強調されているように思うので、そういった趣旨で進めていくことになろうかと思う。
意見が出た部分はいくみ取っていき、今年度、実施する令和4年度の年度評価、第3期中期計画の最終評価については、事務局から説明のあった考え方・進め方に基づいて、また、先ほど指摘があった点を見ていながら評価を行うこととする。

※議題3について<資料3・4>

(事務局より資料3・4に基づき説明)

○遠隔ICUというのは非常におもしろい取組と思うが、これは他の病院との関係はどのようになるか、あるいは市大側でどのような形でやるものなのか。

△遠隔ICUは大学に本部を置き、今は横浜市立病院、センター病院、市立脳卒中・神経脊椎センターの3病院のICUを遠隔で監視し、その医師や看護師に助言を送っている。また、一部AIによる補助も今、いろいろ取り組んでいる。支援センター（附属病院内）に一人、専門医がいることで、3つの病院の合計50床ほどのICUをカバーして診療支援ができるというような形になっている。

○新規参画する県内医療機関ともあるが、これはどのようなものか。

△今は診療報酬が適用されていないため、市内でトライアルをしながらシステムの開発を進めている状況。一方で、集中治療医学会を通じて国にも働きかけており、診療報酬への掲載を目指している。また、県内からもいくつか問合せが来ているため、今後は市外の病院ともつながっていければと考えている。

○市大病院は非常に先駆的な試みをしており、我々も非常に強い関心を持って見ている。遠隔ICUはアメリカなどでは当たり前になっていて、ちょうど昼夜が逆なのでアメリカのICUをオーストラリアで夜のシフトと昼のシフトで管理するとか、だんだんそういう風になってきているため、非常に興味深く拝見しているところ。

○ICUについては日本は規模が小さいと聞いているので、全国的に見ても市大の取組は注目されると思う。
オープンイノベーションの推進について。共創イノベーションセンター準備室の今後の展開はどのようなものか。

△産学連携、特に医療分野の産業界との繋がりをしっかり繋げていこうということで、新しく共創イノベーションセンターを立ち上げようと考えているが、それなりの準備が必要であるので、まずは準備室を立ち上げ、半年後か一年後かの本格的な稼働を考えている。特に人材が必要で、産学連携、繋げる人、また、教員も揃えなければいけないため、少し準備期間をもって進めていこうと考えている。
今、COI-NEXTという研究費も取れており、それに関連して様々なイノベーションのための研究費の申請もしていこうとしているが、そのためにもこのようなセンターがあっさり支えていかないと前進できないと考えるため、そのための準備を行う。

○共創イノベーションセンターは医療の関係ということか、必ずしもそうではないのか。

△ゆくゆくは理学部、商学部、都市関係の専攻もあるので併せて見ていくが、まずは医療と産業界を繋ぐことから始める。

○学長裁量事業について。具体的にはどのような体制で進めるのか。組織を作るのか、あるいは委員会などをつくるのか。

△学長裁量事業は前学長のときからあり、本学での特長的な研究や、支援により将来成果が期待できる若手の研究を選び、そこでそれぞれの規模に見合った支援をしている。

○それを選ぶのは誰か。

△学長、研究・産学連携推進センターのセンター長、学郡長等による。

○数人の組織であるということを理解した。

○教育の部分について。詳細な計画を見ると、今一つ、学生の姿が見えてこない印象。教育は非常にアウトカム評価が難しいと思うが、その辺りはどう考えるか。

△アウトカムについては、他大学と同じように大学院の就学率や就職先、就職率、または在学中の研究成果のようなものも当然、あると考えている。

△医学部については国試の合格率等で非常にわかりやすく捉えられるが、問題は国際総合科学群。国際教養学部、国際商学部、理学部、データサイエンス学部と多様性があるので、それぞれによってアウトカムは多少違ってくるかと思う。ただ、我々としてはまずはディプロマ・ポリシーを満たしているかどうかを中軸としていきたい。また、卒業時にカリキュラム評価アンケートをとっており、学生にアンケートに答える形で自分の学びの到達度を確認してもらい、満足した学生生活を送れたかどうかを確認している。就職状況についても、全国平均と比べての評価を行っている。

もう一つは、卒後3年で本学での教養教育が役に立ったのか、国際的な視野は身についたのか等、4項目について回答してもらい、大学での学びの振り返りと教育の質についての定量的な評価を行っている。

○卒後をフォローするというのは大変素晴らしいが、実際、どの程度、卒業生を追えているのか。

△大変低く、卒業生の十数%程度かと思う。

○それを半分くらいまで上げていこう等の工夫は考えているか。

△やはり各研究室やゼミが学生との結びつきが一番強いので、指導教員を通じて卒後3年の人に声をかけてもらっている。ただ、大学時代に使っていたメールアドレスをそのまま使っている人は少なく、メールを送っても確認が取れないという課題があるため、うまく連絡が届くような対策を考えていきたい。

○そこは卒業生がどれくらい市大愛を持ち続けられるかということ。私の経験からすると、在学中にどれだけ手間暇かけて面倒をみてあげられるかということとも絡むのかなと思う。卒業したらもう知らないという人がほとんどの中で、やはり私大のほうが強く、国公立はその点、弱いのかなというのが感想。

グローバル教育の推進について。優秀な留学生を引き込むというのが主眼のようだが、一方で、今の若い人は外に出たがらなくなっているというのが問題になっている。やはり我々の経験から言っても留学の経験は非常に大きな将来的な成長の糧となることは間違いないことだが、その辺りについて大学としてはどのように考えるか。

△この書きぶりだと、確かに留学生の受け入れに主眼を置いているようになるが、送り出すほうにもこれまでかなり力を入れてきており、欧米を含めた協定校等も非常に増えてきている。ただ、数が多ければいいというものではないので、提携の内容を今一度見直して、本当にいい内容の交流を続けていけるようにしていきたい。

かなりしっかりと受け入れてはくれるが、円安の影響もあり、なかなか大学の支援がないと留学したくても行けないという場合もあるので、寄付金等もできるだけ集めて頑張っていきたい。

△医学部のグローバル化について。在学期間中の6年間に全体の30%は海外留学を経験するという目標を立てている。コロナ期間中に少し下がったが、昨年度はほぼ戻っているので、その取組は継続していきたい。

先ほど質問のあったもう一つのアウトカムについて、医学部からも補足したい。国家試験の合格率はほぼ達成できているため、その点では医学科も看護学科も現状維持でよいと思うが、やはり特徴出しということだと国際化がこれからの課題であると考えている。今は海外留学経験の目標は30%であるが、それをこれから上げていきたい。

医学部の卒業生については、ほぼ100%近く、卒後の就職等は把握できている。だいたい90人卒業する中で、横浜市大の関連病院に勤務する人が60人くらい、残りの30人くらいは東京なり海外なりの病院に勤務しているという状況であるので、数年度にはまた戻ってきてくれればよいと医学部としては考えている。

○研究について、臨床研究中核病院が目標・計画の中には出てこないが、どのような方向性なのか。

△臨床研究中核病院については、8年前から獲得を目指して目標を立てて取り組んできており、昨年1月に申請した。その後、厚労省とやり取りをする中で、とったあとに毎年、基準を満たし続けなければいけないことが判明したが、附属病院の申請後の成果はそこに至っていない。また、国からいろいろ事業が下りてくるとのことで、年間で数億円単位の持ち出しになるとも聞いている。

ただし、横浜、そして日本全体の医療産業に向けて公立大学として貢献し、地域の産業・経済にも貢献する使命があるという点は変わっていないということで、共創イノベーションセンターの構想を温めているところであり、産業界からのシーズ、あるいは自分たちの病院群からのシーズがあった場合には、自分たちの臨床のネットワークの中で社会実装に向けた研究にしっかり取り組んでいこうという方向としている。

従って、臨床研究中核病院については今年度は計画としては書き入れてはいないが、数年がかりで方向性を再考するというのを考えている。

○確かに臨床研究中核病院となった後の苦しみは非常に厳しいものがあると思うが、大学病院としての臨床研究に対する各ドクターの姿勢、マインドの醸成という点で、あるいは体制整備という点で、財務的には持ち出しになることが多いとしても、臨床研究を支援する個々のドクターがやりやすくなるという面で病院全体の方向性としては、決して悪い方向にはいかないのではと経験上、感じている。

△令和5年度の計画にはないが、資料4、令和5年度年度計画の11ページの21番に、『臨床研究中核病院』の認定を目指し、取組を進めると、病院長がお伝えした部分についての記載があることを補足する。

△今、補足があった年度計画の11ページの21番、「臨床研究中核病院」という言葉が左のコラムの中ほどにあるが、一つ手前の「がんゲノム医療拠点病院」については、つい先日、認定を受けたので報告する。

△卒業生アンケートの回答率について、今、非常に頑張ってもらっていて、30%を目標としてやっている。卒業時、卒業生のうちの希望者にメールアドレスをできるだけ書いてもらい、卒業後も連絡を取りやすいようにという取組を行っており、一番直近では30%を少し下回る程度までできている。ただ、これを超えるのは非常に厳しいことは間違いないという状況。

○卒業生対象としては、結構、頑張っている数字と思う。

○資料3の6ページ、「IV 法人経営に関する主な取組」の中に内部統制システムとある。計画の他の部分でも見られる言葉だが、このシステムというのはどういうものか。内部監査部門とかそういったものがあって監査しているとか、そういう認識でいいか。

△内部統制システムについては、金融証券取引法や会社法の定めにある概念を取り入れたものであり、具体的な取組としては資料に記載があるように、リスクマップ、リスクの頻度あるいは大きさにより、各所管がどのようなリスクを抱えているのかを構成員全員が参加しながら把握し、そのリスクをあらかじめ取り除くための経営努力をしていくということ、これを全員参加で取り組んでいくという対応をしている。

○監査を独立してやるという形ではないということか。

△独立した形ではない。監査はもちろん、また別のシステムとして存在し、内部監査・外部からの監査というものがある。ここでいうのは一般的な内部統制と同じであるが、自らリスクを減らすために改革・改善の取組を行い、事件・事故の予防に努めるというもの。

○個々の業務ごとの統制というようなイメージか。

△そういうもの。

○特に内部監査部門を設けるといようなことは考えていないか。

△内部監査については、総務課の中にコンプライアンス担当というセクションを設けており、そのセクションがいわゆる内部監査も行うし、この内部統制システムの運用に関しても、そこがひな型を作って、内部で共有しながら自分たちで自ら行うようにというコントロールもしていく。

○理解した。

○内部統制システムについては、今の話を聞いてもわかる通り、まだ第一歩目のところであり、自己点検が主体。客観的統制と自己的制御の両方がないとなかなかできないものであり、それが課題と思う。前から申し上げていることだが、自己点検を客観的にチェックできるもの、それがガバナンスのトップである理事長・学長に対して、タイムリーに、つまり定期的にかつ何かあればすぐという意味であるが、そういう仕組みがあってできるものだと思う。

民間は、内部統制システムというと、細かく仕組みづくりして主観・客観含めてやるものだが、そこまではまだ行ってないという認識でよいか。すぐにとは言わないが、今後、やはり検討が必要だと思う。

中期計画の中にあえてこのリスクマネジメントという言葉を入れたわけなので、各セクションから独立して、理事長・学長の諮問的な立場になるような所管・セクションのようなものがあつたほうがいいのか。すぐにということではなくても、それに向かって少し検討するとよいのではないか。

リスクマップについてであるが、実際にリスクの洗い出しも含めて各セクションで全部できている状況であるのか。

△リスクマップに関しては、もちろん、今、完全なものが出てきているとは思っておらず、日々進歩させていかなければいけないものと考えている。

イメージとしては、一つのA4のシートに20なり30なりのその課が所管する業務のうちでリスクが高いものを表記し、そのうち発生の影響度が大きいもの、あるいは発生の頻度が高いと思われるものについて、どこに位置づけられるのかを考え、どの項目から先に予防のために取り組んでいくべきなのかというようなことを組織内で共有し、事前に対策を講じていくというもの。

指摘の通り、まだ始めたばかりということもあり完全なものではないが、内部統制に関しては日々、価値観も変わっていくし、社会も動いていくので、より進めていく努力をしていきたい。

- その検討の先々には、それを所管するセクションが必要だと思う。言葉では確かに今、言われた通りのプロセスを経ていくが、テーマがリスクやコンプライアンスということであるから、誰かが司令塔となり、責任を持って俯瞰できる人、あるいはセクションがないといけない。言葉で言っても進まない。リスクの洗い出しはしたが、それに本当に漏れがないのか、リスクマップの作り方一つとってもリスクコントロールのプロセス、ハンドリングの良し悪しが決まってくるといっても過言ではないのでは。もちろん、民間と大学ではリスクも当然、違ってくると思うが、これから進化させていければと思うので、よろしく願いたい。

市大のイメージについて。過去 10 年、20 年、50 年という単位で考えてみると、相当イメージは変わった。イメージメイクの主体は企業や行政、OBではなくとも、そこに実際にいる人々が市大の学生のイメージを全体として作っている感じがする。医学部だけは別で、市大イコール医学部のように言われており、かなり評価は定着していると思うが、文系の学生は、昔は実務はできるが派手さがない地味な学生というイメージだったが、それは今もあまり変わっていないかもしれない。そうであるので、グローバル化だったり、いろいろな機会を与えている幅を学生時代に身につけさせようとしているのだと思うが、それだけでなく、今も進めている産学連携であったり、あるいは学生だけでなく、先生方ももっと横浜だったり神奈川だったり、いろんなどころに出ていって発信をしていって、学生は学生で産学連携やそういったことに携わっていくという、要は企業をうまく巻き込みながら、企業から見た市大のイメージというものを変化させていく、そういう取組が必要ではないか。

もう一つ、自分もOBでありOB組織にも入っているが、OB組織とのうまい連携が必要ではないか。今もやっていて非常によい取組だと思うが、これをもっと広げていかなければ。そうすることによって、学生にできるだけの経験を学内でさせ、その上でいざ外へ出れば外のイメージも校風としてのイメージもだいぶ変わると思う。今やっていることは間違っていないと思うが、それをもっともっとスピーディに積極的にやれば、だいぶ学校のイメージも学生のイメージも変わってくるのでは。一番典型的なのは、慶応の三田会。みんながああいうイメージかという、そうでない学生もたくさんいるが、なんとなく塾のイメージというものがある。市大はまだあそこまでのイメージが構築できていないと思うので、それを今、取り組んでいることをもっともっとスピーディに、企業や地元を巻き込みながらやっていけば、おのずとそういう風に学生も見られ始めるのではないか。

- △OBが非常に協力的になってきたというのは、昨年一年間で非常に感じており、副学長も基金の担当ということで、医学部でありながら文系とか学部を問わずいろいろな企業にも行っていただいている、市大のイメージが伝わり始めていると思う。市大がこんなことやってるのか、すごいねと、そういう気持ちで共感していただけて、何か市大のためにやってやろうじゃないかという感じでOBとして繋がったりとか、また、寄付をいただけたりということがあるので、これから計画も立てるが、しっかりと市内外に伝えていくことが大事だということを感じている。

起業したいという学生、社会にでて3・4年ぐらいたって、やはり何か始めたいという学生がかなり増えているということも聞いており、そこにOBが自分たちの経験を活かして支えたいという、そういった動きが今、活発になっている。その辺りをなんとか繋ぎとめて、次の段階に向かっていければと思っている。

金沢区に大きな工業団地があるが、そこも先日、大学の先生が学生を紹介して一緒に活動してくれたことが非常に評価が高く、今後、大企業に限らず、こういうことをやってみたいということに応えられるところで新しい価値観の創造というか、イノベーションを起こせるのではないかと考えている。また、女子学生がとても活躍しているというのも大学の特徴となっていると聞いている。

- 特に 100 周年をこれから迎えるということであるので、ブランディング等、アピールしていくチャンスと思う。ぜひ、いろいろな取組を加速して行ってほしい。

	<p>○先ほどの議論を聞いていて思ったことであるが、内部統制のための組織というのは、この大学には存在しないのか。組織図に書かれていないが、実態としてはどういう形で内部統制監査部門というものが動いているのか。組織図に載っていないだけで機能しているのであればよいが、組織図にないので簡単に状況を教えてほしい。</p> <p>△内部統制については、先ほどもお伝えしたように、事務局としては総務課の中にコンプライアンス担当というセクションがあり、実務に関してはそこがコントロールしながら進めている。実際の形としてはプロジェクト組織を設け、その中で事務局長以下、各課の責任者が具体的に執り行い進めるという仕組みで、最高責任者は理事長。 委員がご覧になっているものは、このような組織図でよろしいか。</p> <p>○この組織図。これでわからないと外の人がわからないので、ファンクションとして動いているということはわかったが、外から見てしっかり独立した組織が見えるようにされるのがいいのではないか。</p> <p>△補足すると、この組織図の上から三つ目、総務部の二つ目に総務課があり、その中にコンプライアンス担当というセクションがある。担当セクションであるため記載を省略しているが、実際には課長がいて執り行っている。</p> <p>○外から見て見えるような形について、ご検討いただければと思う。 もう一点、PLの見込書について。参考という話ではあったが、令和4年と5年の予算の比較が記載されていて、法人全体であればそんなにぶれはないと思うが、病院とセンターに関して言えば、特に今、コロナもまだ抜けきれない状態であるので、令和4年の予算と決算見込のぶれというのはかなりあるだろうし、当然、それは令和5年予算に反映されるべきものと思う。こういう比較で今までやってきたということだろうが、今後もそれでいいのかどうかというところを少し検討した方がいいように思う。 また、医療収益が市大病院は14億円、センター病院は23億円もアップするという非常に意欲的なPL見込となっているが、もう少し根拠を示した方がいいかと。今、23億円アップというのは相当大変なことと思うので、こういう計算書を提示するのであれば、そういう点も少し配慮してもらえればと思う。</p> <p>△課題として受け止め、今後、対応していきたい。</p> <p>○リスク対応や組織の在り方等について、あるいは病院、予算の今後の在り様の問題についていろいろ指摘をいただいたので、参考にしてもらいたい。 本日、予定していた議題としては以上。 事務局から報告事項があるとのことなので、説明をお願いしたい。</p> <p>※議題4について<資料5> (事務局から資料5に基づきスケジュールを説明) 委員からは特になし</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>[配付資料] 資料1 横浜市公立大学法人評価委員会条例 資料1 第94回横浜市公立大学法人評価委員会会議録(案) 資料2-1 第4期中期目標期間中における横浜市公立大学法人評価委員会で行う評価について 資料2-1-別紙 総務省資料「令和5年度地方分権一括法における公立大学法人の年度計画及び年度評価の廃止」 資料2-2 横浜市公立大学法人評価委員会評価の考え方・進め方について 資料3 YCU PLAN2023 資料4 公立大学法人横浜市立大学 令和5年度計画概要図 資料5 令和5年度 横浜市公立大学法人評価委員会開催予定 [参考] 公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>